

第2学年 国語科学習指導案

児童 2年1組 男子16名 女子16名 計32名
指導者 大櫻 恵一 千田 円

1 単元名 お話、大すき 11月中旬 17時間(読む6 書く11)
(教材名 こんなお話を考えた)

2 単元について

(1) 教材について

第1学年及び第2学年の「書くこと」における目標は、「経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。」である。

本教材は、読み聞かせを聞いてお話のおもしろさを味わった後、自分で簡単な組み立てを考えてお話を書き、絵本を作ることをねらいとしている。「三まいのおふだ」は挿絵が多いため、文字を追って読むことを苦手としている児童も、抵抗なく学習に取り組むことができるものと思われる。聞いて楽しむことを大事にしながら、イメージ豊かにお話の世界を思い描くことができる教材としての側面と共に、絵本作り活動への橋渡しの役目ももっている。

想像を十分に広げながらお話を味わうことによって、絵本作りにも関心・意欲をもち、自分なりのストーリーを楽しみながら思い描くことができる教材である。

(2) 児童の実態

児童は1学期に、「今週のニュース」で、自分の身の回りから様々な見方でニュースを探すこと、「お手紙こうかん会」で、相手意識をもちながら手紙を書くこと、「生きものかんさつカード」で、観察した生き物について分かりやすく書いて1年生に紹介することを学習してきた。これらの学習活動の中では、どの児童も楽しみながら文章を書くことができ、書くことに対する関心・意欲が高まってきている。

しかし、4月の国語科に関する意識調査では、「文を書くのが好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童が学級全体の90%であったが、7月の同調査では、81%に減少している。「きらい」「どちらかといえばきらい」と回答した児童はその理由として、「始めに何を書けばいいかわからない」「文を長く書くことができない」ということを挙げている。

(3) 指導に当たって

本単元の学習においては、児童が想像力を十分に膨らませてお話の世界に飛び込んだり、登場人物の行動や様子などを思い描きながら絵本作りをしたりすることができるようにしたい。そこで、読むことや書くことを苦手としている児童も、意欲をもって楽しく学習活動に取り組むことができるように留意しながら、個に応じた指導の工夫を行っていききたい。

(4) 研究仮説との関わり

ア 教材の工夫と活用

絵本作りでは、紙板書やワークシートを活用することによって、三枚の挿絵と「はじめ」「中」「おわり」というお話の展開との関連をしっかりと確認する。また、書くことを苦手としている児童には、構成の段階でお話作りのポイントをより具体的に示したワークシートを準備することによって、自信をもって書き進めることができるようにする。(視点1)

イ グループ学習、TT指導

・書くことに対して苦手意識のある児童は、構成や記述の段階でのつまづきが予想される。そこで、TT指導では、特に対話を大切にすることによって、お話が膨らむきっかけを一緒に探したり、児童の思いを引き出したりする支援を行っていく。また、他の児童一人一人にも細やかな支援を心がけていく。

・推敲の段階で、グループで作品を読み合っただけでアドバイスをし、感想の交流をもとにして書き加えや修正をする活動を行うことによってさらに想像を広げたり、お話作りのポイントを確認したりすることができるようにする。また、完成した絵本を読みあう段階では、友だちの絵本のよいところを見つけ、お互いに認め合うことができるようにする。(視点2)

ウ 座席表の活用

お話の内容や振り返りカード、ワークシートの記述等をもとにして児童の実態を把握して書き込み、個に応じた支援ができるようにする。また、1時間毎の学習の様子についても記録することによって、児童の変容を見取っていく。(視点3)

3 単元の目標

絵を見て想像を広げながら読み聞かせを聞き，お話のおもしろさを味わうことができる。
簡単な組み立てを考えてお話を書き，絵本を作ることができる。

- [関心・意欲・態度] ・本を選び，進んで読もうとしている。
・楽しみながら，お話を考えたり絵本を作ったりしている。
- [話すこと・聞くこと] ・話の内容の大体を聞き落とさないように，興味をもって読み聞かせを聞くことができる。
- [書くこと] ・「はじめ・中・おわり」など，簡単な組み立てを考えてお話を書くことができる。
・作ったお話を読み返し，表記の間違いや筋の通らないところを見つけ書き直すことができる。
- [読むこと] ・お話を聞いて，内容の大体をつかむことができる。
・場面の様子などについて想像を広げながら，お話を読んだり聞いたりすることができる。
- [言語事項] ・長音，拗音などの表記ができ，助詞「は・を・へ」を適切に使うことができる。
・句読点の打ち方，かぎの使い方を理解して，文章の中で使うことができる。

4 単元の評価規準

	概 ね 満 足
関心・意欲・態度	図書室から本を選んで，進んで読もうとしている。 楽しみながら，お話を考えたり絵本を作ったりしている。
話すこと・聞くこと	話の大体の内容を聞き落とさないように，興味をもって読み聞かせを聞こうとしている。
書くこと	「はじめ・中・おわり」など，簡単な組み立てを考えてお話を書いている。 作ったお話を読み返し，表記の間違いや筋の通らないところを見つけ書き直している。
読むこと	お話を聞いて，内容の大体をつかんでいる。 場面の様子などについて想像を広げながら，お話を読んだり聞いたりしている。
言語事項	長音，拗音などの表記ができ，助詞「は・を・へ」を適切に使っている。 句読点の打ち方，かぎの使い方を理解して，文章の中で使うことができる。

5 指導計画(17時間)

次	時	目 標	評 価 規 準	単元の評価規準との関連	指導体制
			概 ね 満 足		
1	1	・絵を見ながら，三枚のお札がどうなるのかを聞き落とさないように，興味をもって読み聞かせを聞くことができる。	・三枚のお札がどうなるのかを聞き落とさないように，興味をもって読み聞かせを聞こうとしている。 ・三枚のお札がどのように使われたのか考えながらお話を聞き，内容の大体をつかんでいる。	話 読	一斉
2	2	・教師の読み聞かせを聞き，いろいろなお話に親しむことができる。	・読み聞かせに興味をもって聞こうとしている。	話	一斉
	3	・図書室の本を選んで進んで読もうとしている。	・図書室で本を選んで，進んで読もうとしている。	関 読	一斉
	4	・読んだ本についてグループで紹介することができる。	・読んだ本について，大体の内容をつかんでいる。 ・場面の様子などについて想像を広げながら，お話を読んでいる。	関 読	一斉
3	5	・友達どうしで読み聞かせをして，感想を話し合うことができる。	・友達の読み聞かせを聞き，内容の大体をつかみ，友達と感想を話し合っている。 ・場面の様子などについて想像を広げながら，お話を読んでいる。	話 読	一斉
	7	・絵本作りに興味をもち，三枚の絵を見比べ，お話の順序を考えることができる。	・絵本作りに興味をもち，進んでお話の順序を考えている。	関 書	一斉
	8	・三枚の絵を線画で示したものに，彩色しながら，お話のイメージを広げることができる。	・絵を見て場面の様子などについて想像を広げながら，「はじめ・中・おわり」の簡単な組み立てを考えてメモを書いている。	書	T・T
4	9	・教科書の文例を読んで，お話の書き方を理解することができる。	・教科書の文例を読んで，楽しみながら，お話を考えたり絵本を作ったりしている。	関	T・T
	10	・メモをもとに，お話の「はじめ・中・おわり」など，簡単な組み立てを考えて書くことができる。	・「はじめ・中・おわり」など，簡単な組み立てを考えてお話を書いている。 ・長音，拗音等の表記，助詞の使い方，句読点の打ち方やかぎの使い方を理解して，文章の中で正しく使っている。	書 言	T・T
	11	・書いた作品を読み返し推敲することができる。	・作ったお話を読み返し，表記の間違いや筋の通らないところを見つけて書き直している。	書	T・T
	12	・本時			
5	13	・絵本の作り方を理解することができる。	・楽しみながら，絵本を作っている。 ・拗・長音や助詞，句読点やかぎなどを適切に使って清書している。	関 言	一斉
	14	・レイアウトを考え，絵をかき，清書することができる。			
	15	・表紙を作るなどして，本の形にすることができる。			
	16	・絵本を読み合い，感想を発表することができる。	・場面の様子などについて想像を広げながら，友達が作ったお話を読んでいる。	読	一斉

6 本時の指導（12 / 17 TT指導）

(1) 目標

お話の「はじめ」につづくように、「中・おわり」の簡単な組み立てを考えて、お話を書くことができる。

(2) 具体の評価規準

	十分満足	概ね満足	努力を要する児童 (支援)	評価方法
書	・メモをもとに、自分で想像したことや会話文を入れたり、「中・おわり」など、簡単な組み立てを考えたりして、お話を書いている。	・メモをもとに、「中・おわり」など、簡単な組み立てを考えて、お話を書いている。	・対話をしながら、一緒に絵をよく見て、お話がふくらむきっかけを探す。	・ワークシート
言	・長音、拗音などの表記が正しくでき、助詞「は・を・へ」を適切に使っている。 ・句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して、文章の中で正しく使っている。	・長音、拗音などの表記ができ、助詞「は・を・へ」を適切に使っている。 ・句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して、文章の中で正しく使っている。	・個別指導をしながら、間違いに気づかせたり、補ったりして支援する。	・ワークシート

(3) 授業研究の視点

- 視点1 本時は、記述の第2時である。児童全員が、メモをもとにしながら興味と関心をもって学習を続けることができるようにしたい。また、書く時間を十分に確保して指導に当たる。
- 視点2 書く力に個人差があるので、本時ではTT指導を取り入れて、つまずいている児童に対して、対話を中心にしながらお話が膨らむきっかけを探したり、児童の思いを引き出したりする支援が効果的にできるようにする。
- 視点3 個に応じた支援が効果的にできるように、つまずきが予想される児童への支援の仕方を座席表に記入する。座席表を活用しながら、児童一人一人に合った支援ができるようにする。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	支援・留意点()と評価() 個...個に応じた指導	
		T 1	T 2
つかむ 5	1 前時の「はじめ」の場面を読み、お話を想起する。 2 本時の学習課題をつかむ。 お話の「はじめ」につづくように、「中・おわり」の文を書こう。	前時の学習活動を想起させる。 メモをもとに、お話の「中・おわり」の場面を書くことを確認する。	机間指導 机間指導
深 め る 30分	3 お話の書き方を確認する。 ・会話文を入れよう。 ・お話がつながるように書こう。 ・まわりのようすをくわしく書こう。 ・楽しくおわるように工夫しよう。 ・楽しい題名をつけよう。 ・ていねいな文で書こう。 ・書き終わったら読み返そう。 4 お話の「はじめ」につづくように、メモをもとにしながら、お話の「中・おわり」を書く。	メモをただ写すのではなく、お話を考えて書くことを指導する。 机間指導 個...なかなか書き進められない児童には、対話をしながらいっしょに絵をよく見て、お話が膨らむきっかけを探し支援する。 個...早く終わった児童には、季節や時間、音やにおいなどについても書き加えさせる。 メモをもとに、「中・おわり」など、簡単な組み立てを考えて、お話を書いている。 長音・拗音などの表記ができ、助詞「は・を・へ」を適切に使っている。 句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して、文章の中で使っている。 個...書き終えた児童には、「はじめ」の場面から最後までを読み返し、お話の「はじめ・中・おわり」が絵と合うように展開されているか、長音・拗音の表記、助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎの使い方が適切かを確認させる。	机間指導し、書く内容が十分深まっていない児童を確認する。 机間指導 個...なかなか書き進められない児童には、対話をしながらいっしょに絵をよく見て、お話が膨らむきっかけを探す。 個...座席表をもとに、つまずきが予想される児童への個別指導に当たる。
ま と め る 10分	5 本時の学習を振り返る。 ・振り返りカードに、感じたことやがんばったこと等を記入をして、発表する。 6 次時の学習内容を知る。	本時の学習を振り返り、振り返りカードに記入させる。	授業でのがんばりや伸びたところが見られた児童について、座席表に記入する。

お話、大すき

「お話の「はじめ」につづくように、
「なか・おわり」の文を書こう。」

- ・ 会文を入れよう。
- ・ お話がつながるように書こう。
- ・ まわりのようすをくわしく書こう。
- ・ 楽しくおわるようにくふうしよう。
- ・ 楽しい名をつけよう。
- ・ ていねいな文で書こう。
- ・ おわったら読みかえそう。